



Sun Ultra™ 20 M2 Workstation オペレーティングシステム インストールガイド

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 819-7873-10
2006年8月、改訂A

本書に関するコメントは、次の宛先までお送りください。 <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright © 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、本書に記載されている製品に搭載された技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、Sun 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java, Solaris, NetBeans Sun Ultra は、Sun Microsystems, Inc. の米国 およびその他の国における商標または登録商標です。

AMD, Opteron, AMD のロゴマーク、および AMD Opteron のロゴマークは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。PostScript のロゴマークは、Adobe Systems, Incorporated の商標または登録商標です。

予備または交換用の CPU の使用は、米国輸出法に従って輸出された製品に搭載されている CPU の修理または 1 対 1 での交換に限定されています。CPU を米国政府の許可なく製品のアップグレードに使用することは禁じられています。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

米国政府の権利 - 商用。政府関連のユーザーは、Sun Microsystems, Inc. の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

Copyright © 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. détient les droits de propriété intellectuelle relatifs à la technologie incorporée dans le produit qui est décrit dans ce document. En particulier, et ce sans limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains listés à l'adresse <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets supplémentaires ou les applications de brevet en attente aux Etats - Unis et dans les autres pays.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, Solaris et NetBeans Sun Ultra sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

AMD, Opteron, the AMD logo, the AMD Opteron logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. Le logo PostScript est une marque de fabrique ou une marque déposée de Adobe Systems, Incorporated.

L'utilisation de pieces detachees ou d'unites centrales de remplacement est limitee aux reparations ou a l'echange standard d'unites centrales pour les produits exportes, conformement a la legislation americaine en matiere d'exportation. Sauf autorisation par les autorites des Etats-Unis, l'utilisation d'unites centrales pour proceder a des mises a jour de produits est rigoureusement interdite.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ETAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISEE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



Adobe PostScript

目次

はじめに vii

1. インストールの概要 1-1
2. Solaris 10 6/06 および Linux オペレーティングシステムのインストール 2-1
 - 2.1 オペレーティングシステムの選択とアップデート 2-2
 - 2.2 Linux または Solaris オペレーティングシステムの BIOS の設定 2-3
 - 2.3 診断パーティションについて 2-4
 - 2.4 ブートハードディスクドライブのパーティションの消去 2-5
 - 2.5 up2date ユーティリティの実行 2-6
 - 2.6 ドライバのインストールと診断パーティションのマウント 2-6
 - 2.6.1 Linux OS およびドライバのインストール 2-7
 - インストールプロセスの流れ 2-7
 - インストールの実行 2-7
 - 2.6.2 Solaris OS およびドライバのインストール 2-9
 - インストールプロセスの流れ 2-9
 - インストールの実行 2-9
 - 2.6.3 システムにスーパーユーザーとしてログインします。 2-10

- 3. Windows OS およびドライバのインストール 3-1
 - 3.1 Windows OS 用の BIOS の設定 3-2
 - 3.1.1 Windows OS および NVRAID 用のシステム BIOS の設定 3-2
 - 3.1.2 NVIDIA RAID BIOS の設定 3-3
 - 3.2 診断パーティションについて 3-3
 - 3.3 ブートハードディスクドライブのパーティションの消去 3-4
 - 3.4 Windows の手動インストール 3-5
 - 3.4.1 NVIDIA RAID ドライバフロッピーディスクの作成 3-5
 - 3.4.1.1 要件 3-5
 - 3.4.1.2 フロッピーディスクの作成 3-6
 - 3.4.2 フロッピーディスクを使用した Windows XP のインストール 3-6
 - 3.4.3 NVIDIA チップセットおよびディスプレイドライバのインストール 3-7
 - 3.5 XpReburn スクリプトによるドライバの入った Windows CD の作成 3-8
 - 3.5.1 要件 3-8
 - 3.5.2 XpReburn の使用 3-9
 - 3.5.3 NVIDIA ディスプレイドライバのインストール 3-10
- A. RIS サーバー上の Windows イメージの作成と RIS イメージのインストール A-1
 - A.1 32 ビット Windows XP (サービスパック 2) RIS イメージの作成 A-2
 - A.1.1 RIS サーバー上の Windows XP SP2 32 ビットイメージの作成 A-2
 - A.1.2 NVIDIA イーサネットドライバの Windows イメージへの追加 A-3
 - A.1.3 その他のドライバの追加と設定ファイルの修正 A-4

- A.2 64 ビット Windows XP RIS イメージの作成 A-7
 - A.2.1 Windows XP 64 ビットの RIS サーバーへのインストール A-7
 - A.2.2 NVIDIA イーサネットドライバの Windows イメージへの追加 A-8
 - A.2.3 その他のドライバの追加と設定ファイルの修正 A-9
 - A.3 RIS イメージのクライアントワークステーションへのインストール A-12
- B. Linux および Solaris 10 OS リモートイメージのインストール B-1**
- B.1 PXE サーバーからの LINUX のインストール B-1
 - B.2 Jumpstart サーバーからの Solaris のインストール B-2

はじめに

本書では、Solaris™ 10、Linux、および Windows オペレーティングシステムの設定に必要な情報について説明します。

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルスーパーユーザー	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルと Korn シェル	\$
Bourne シェルと Korn シェルスーパーユーザー	#

表記上の規則

書体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% su Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『ユーザーズガイド』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

関連ドキュメント

Sun Ultra 20 M2 Workstation のドキュメントセットについては、システムに付属している『Where To Find Documentation (ドキュメントの場所)』シートで説明しています。すべてのドキュメントは、製品ドキュメントサイトで公開されています。次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/documentation>

これらのドキュメントの一部については、製品ドキュメントサイトで簡体字中国語、繁体字中国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、およびスペイン語の翻訳版が入手可能です。

英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

ドキュメント、保証、サポート、 およびトレーニング URL

分野	URL	説明
ハードウェア ドキュメント	http://www.sun.com/documentation	Sun ハードウェアドキュメント
ソフトウェア ドキュメント	http://docs.sun.com	Solaris およびその他のソフトウェア ドキュメント
保証	http://www.sun.com/service/support/ warranty/index.html	保証に関する詳細な情報が確認できます
サポート	http://www.sun.com/support/	パッチなどのテクニカルサポートを 利用 できます
トレーニング	http://www.sun.com/training/	Sun の各種トレーニングコースや教育サー ビスについて案内しています

サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号の記載をお願いいたします。

Sun Ultra 20 M2 Workstation オペレーティングシステムインストールガイド、819-7873-10

インストールの概要

本書では、インストール済みの Solaris™ 10 6/06 オペレーティングシステムを使用しない場合に、オペレーティングシステム (OS) をワークステーションにインストールする方法について説明します。

Solaris 10 OS および Linux のインストール手順については、[第 2 章](#)を参照してください。

Windows OS のインストール手順については、[第 3 章](#)を参照してください。

Windows OS RIS イメージの作成とインストールについては、[付録 A](#)を参照してください。

PXE ベースの Linux インストールまたは Jumpstart ベースの Solaris 10 OS インストールについては、[付録 B](#)を参照してください。

[図 1-1](#) に、ワークステーションにオペレーティングシステムをインストールする際の手順を示します。

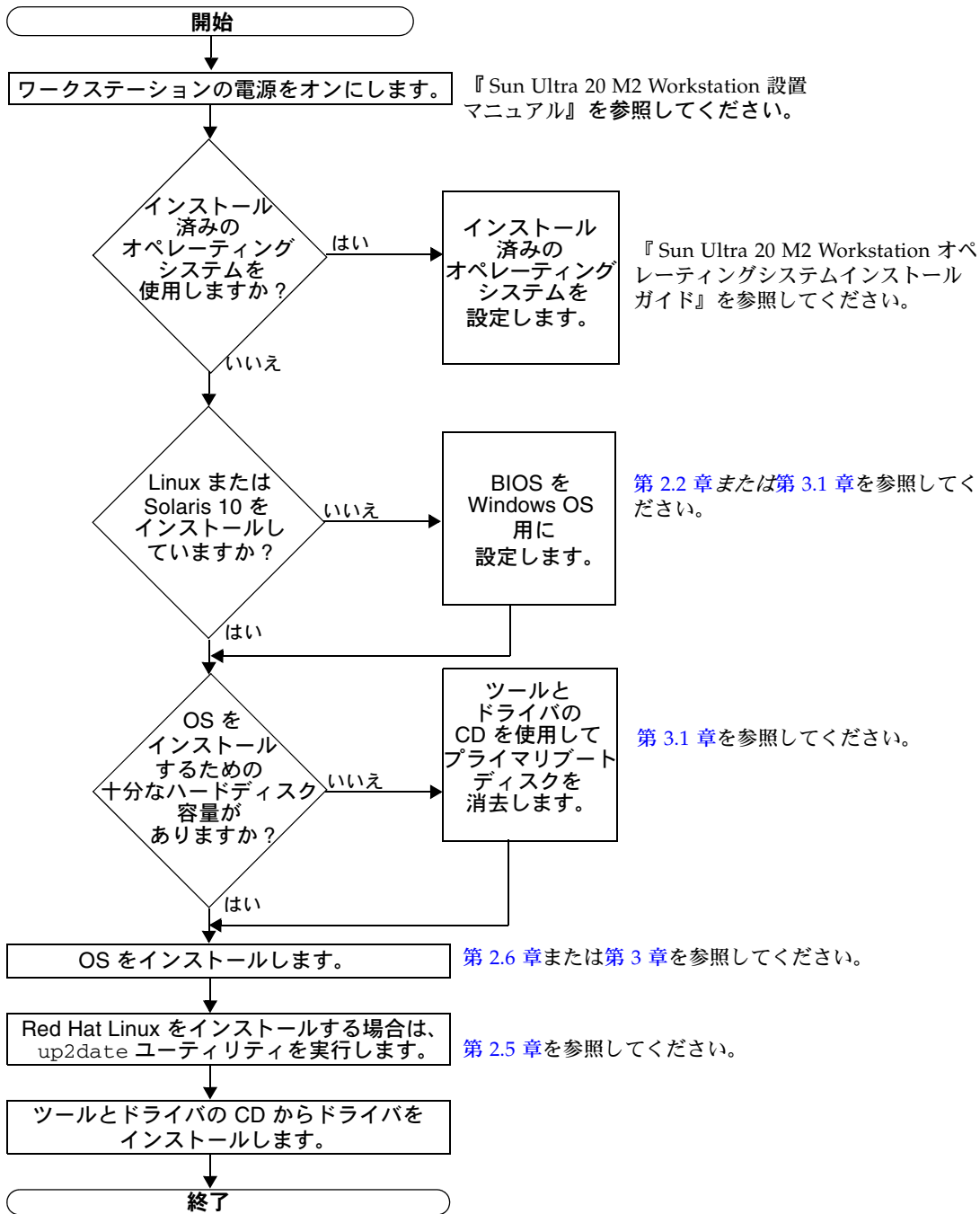


図 1-1 インストールの流れ

Solaris 10 6/06 および Linux オペレーティングシステムの インストール

この章では、インストール済みの Solaris 10 OS を使用しない場合に、Solaris 10 6/06 オペレーティングシステム (Solaris 10 OS) または Linux OS をワークステーションにインストールする方法について説明します。

この章には次のセクションがあります。

- セクション 2.1、2-2 ページの「オペレーティングシステムの選択とアップデート」
- セクション 2.2、2-3 ページの「Linux または Solaris オペレーティングシステムの BIOS の設定」
- セクション 2.3、2-4 ページの「診断パーティションについて」
- セクション 2.4、2-5 ページの「ブートハードディスクドライブのパーティションの消去」
- セクション 2.5、2-6 ページの「up2date ユーティリティの実行」
- セクション 2.6、2-6 ページの「ドライバのインストールと診断パーティションのマウント」

2.1 オペレーティングシステムの選択とアップデート

Sun Ultra 20 M2 Workstation には、Solaris 10 6/06 OS がプリインストールされています。それ以前の Solaris OS のバージョンはサポートされていません。Solaris 10 OS は、次の Web サイトからダウンロードできます。

<http://www.sun.com/software/solaris/>

このワークステーションでは、次の Linux OS (またはそれ以降のバージョン) をサポートしています。

- Red Hat Enterprise Linux 3 WS Update 7、32 ビットおよび 64 ビット
- Red Hat Enterprise Linux 4 WS Update 3、32 ビットおよび 64 ビット
- SUSE Linux Enterprise Server 9 SP 3、64 ビットのみ

サポートされているオペレーティングシステムの最新リストについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/ultra20>

Sun Ultra 20 M2 Workstation に対応する Red Hat Enterprise Linux WS または SUSE Linux Enterprise Server は、次の Sun Web サイトで購入できます。

<http://www.sun.com/software/linux/index.html>

2.2 Linux または Solaris オペレーティングシステムの BIOS の設定

BIOS の「Installed O/S (インストールされた OS)」オプションのデフォルト設定は「Others (その他)」です。このデフォルト設定が変更されていない場合は、Linux または Solaris 10 オペレーティングシステムをインストールするときに、この設定を行う必要はありません。

BIOS の「Installed O/S (インストールされた OS)」オプションがデフォルト設定から変更されている場合は、Linux または Solaris 10 オペレーティングシステムで次の手順に従います。

1. ワークステーションの電源をオンにし、Sun ロゴ画面で F2 キーを押して「BIOS Setup (BIOS 設定)」メニューを開きます。
2. 「Advanced BIOS Features (詳細な BIOS 機能)」メニューを選択します。
3. 「Installed O/S (インストールされた OS)」オプションを「Others (その他)」に変更します。
4. F10 キーを押して変更内容を保存し、BIOS を閉じます。

2.3 診断パーティションについて

Sun Ultra 20 M2 Workstation のツールとドライバの CD には、診断 (システムテスト) ソフトウェアが収録されています。診断ソフトウェアの使用手順については、『*Sun Ultra 20 M2 Workstation Service Manual* (Sun Ultra 20 M2 Workstation サービスマニュアル)』を参照してください。

テストスクリプトをログファイルに書き込むには、診断パーティションが必要となります。診断パーティションが存在しないと、診断画面には結果しか表示されません。

診断パーティションは、Sun Ultra 20 M2 Workstation にプリインストールされています。診断パーティションは、削除していない限りインストールし直す必要はありません。

診断パーティションを削除した場合は、ツールとドライバの CD の「Create Diagnostic Partition (診断パーティションを作成する)」オプションを使用して作成し直すことができます。手順については、『*Sun Ultra 20 M2 Workstation Service Manual* (Sun Ultra 20 M2 Workstation サービスマニュアル)』を参照してください。

2.4 ブートハードディスクドライブのパーティションの消去

ブートハードディスクドライブ上の診断パーティション以外のすべてのパーティションを消去するには、ツールとドライバの CD のメインメニューにある「Erase Primary Boot Hard Disk (プライマリブートハードディスクの消去)」オプションを使用します。



注意 - 「Erase Primary Boot Hard Disk (プライマリブートハードディスクの消去)」オプションは、診断パーティションを除くハードドライブ上のすべてのパーティションとすべてのユーザーデータを消去します。この操作を開始する前に、ハードディスクの全データをバックアップしてください。

プライマリブートハードディスクを消去するには、次の手順に従います。

1. ハードドライブ上に必要なデータがあれば、バックアップしておきます。
2. ツールとドライバの CD をワークステーションに挿入します。
3. メインメニューが表示されたら、ツールとドライバの CD のメインメニューから次のオプションを選択します。
3. Erase Primary Boot Hard Disk

このオプションを選択すると、プライマリハードディスクドライブ上に現在あるすべてのパーティション (診断パーティション以外) が消去されます。診断パーティションが存在する場合、このパーティションはそのままになります。

2.5 up2date ユーティリティの実行

Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアをインストールする場合は、OS のインストールが完了してから、ツールとドライバの CD からビデオドライバをインストールするまでの間に、up2date ユーティリティを実行してください。

注 - すでに NVIDIA ドライバをインストールしている場合は、カーネルが更新されているため、up2date の実行後に NVIDIA ドライバを再インストールしてください。

2.6 ドライバのインストールと診断パーティションのマウント

OS のインストールが完了したら、ツールとドライバの CD に収録されているインストールスクリプトを実行して、OS に対応するドライバをインストールします。

ツールとドライバの CD は、Sun Ultra 20 M2 Workstation に付属しています。ツールとドライバの CD は、次のサイトからもダウンロードできます。

<http://www.sun.com/ultra20>

新しい診断パーティションを作成した場合にも、サポートされているすべてのオペレーティングシステム用の診断パーティションをマウントするために、このスクリプトを実行する必要があります (診断パーティションの作成方法については、『*Sun Ultra 20 M2 Workstation Service Manual* (Sun Ultra 20 M2 Workstation サービスマニュアル)』を参照してください)。Windows XP ワークステーションに、診断パーティションをマウントすることはできません。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- セクション 2.6.1、2-7 ページの「Linux OS およびドライバのインストール」
- セクション 2.6.2、2-9 ページの「Solaris OS およびドライバのインストール」

2.6.1 Linux OS およびドライバのインストール

インストールプロセスの流れ

Linux OS およびドライバをインストールする順序は次のとおりです。

1. インストール済みの Solaris OS をサーバーから削除します。 [セクション 2.4、2-5 ページの「ブートハードディスクドライブのパーティションの消去」](#) を参照してください。
2. 必要に応じて、Linux OS インストール用に BIOS を設定します。
[セクション 2.2、2-3 ページの「Linux または Solaris オペレーティングシステムの BIOS の設定」](#) を参照してください。
3. OS をインストールします。以前作成したリモートイメージをインストールする場合は、[セクション B.1、B-1 ページの「PXE サーバーからの LINUX のインストール」](#) を参照してください。

注 インストールする際は、55M バイトの診断パーティションを消去しないでください。何らかの理由で診断パーティションを消去してしまった場合は、ツールとドライバの CD の「Diagnostics (診断)」セクションにある「Create Diagnostic Partition (診断パーティションを作成する)」オプションを使用します。詳細は、『*Sun Ultra 20 M2 Workstation Service Manual* (Sun Ultra 20 M2 Workstation サービスマニュアル)』を参照してください。

4. Red Hat Linux OS をインストールした場合は、[セクション 2.5、2-6 ページの「up2date ユーティリティの実行」](#) に従って up2date ユーティリティを実行します。
5. 次の手順に従って、ドライバをインストールします。

インストールの実行

Linux OS が動作している環境で、ドライバのインストールとツールとドライバの CD のマウントを行うには、次の手順に従います。

1. システムにスーパーユーザーとしてログインします。
2. DVD ドライブにツールとドライバの CD を挿入して、次のように入力します。

```
# cd /mountpoint/drivers/linux/operating_system
```

/mountpoint には CD をマウントするディレクトリを指定し、*operating_system* にはワークステーションにインストールされている Linux の種類を指定します。

- CD が自動マウントされなかった場合、このディレクトリは存在しません。その場合、[ステップ 3](#) および [ステップ 4](#) の操作を行い、手動で CD をマウントしてこのディレクトリへ移動する必要があります。
 - `operating_system` ディレクトリへ移動できた場合には、[ステップ 5](#) へ進みます。
3. CD が自動マウントされない場合、端末ウィンドウを開き、次のコマンドを入力して CD をマウントします。

```
# mount -o ro /dev/cdrom /mountpoint
```

`/mountpoint` には、OS とオプティカルドライブの種類に応じたマウント位置を指定します。

次に例を示します。

```
# mount -o ro /dev/cdrom /mnt/dvdrom
```

4. `/mountpoint/drivers/linux/operating_system` ディレクトリに移動します。
`/mountpoint` には CD をマウントするディレクトリを指定し、`operating_system` にはワークステーションにインストールされている Linux の種類を指定します。
次に例を示します。

```
# cd /mnt/dvdrom/drivers/linux/red_hat
```

5. 次のコマンドを入力して、インストールスクリプトを実行します。

```
# ./install.sh
```

X サーバーが起動していると、このスクリプトは実行されません。

- スクリプトが異常終了し、エラーメッセージが表示される場合には、[ステップ 6](#) へ進みます。
 - スクリプトが正しく実行されたら、[ステップ 7](#) に進みます。
6. スクリプトが異常終了し、エラーメッセージが表示される場合には、次の手順で X サーバーを無効にします。
- a. システムプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
% init 3
```

- b. スーパーユーザーとしてログインします。
 - c. [ステップ 4](#) および [ステップ 5](#) を繰り返します。
7. ドライバのインストールが完了したら、CD を取り出します。
 8. ワークステーションをリブートします。

2.6.2 Solaris OS およびドライバのインストール

Solaris 10 OS の新規インストールを行っているときにドライバをインストールするには、次の手順に従います。Solaris 10 6/06 OS またはそれ以降、および互換バージョンがサポートされます。

注 – プリインストールされていた OS のバックアップコピーを復元する場合は、ドライバを再インストールする必要はありません。

インストールプロセスの流れ

Solaris OS およびドライバをインストールする順序は次のとおりです。

1. 必要に応じて、Solaris OS インストール用に BIOS を設定します。[セクション 2.2](#)、[2-3 ページの「Linux または Solaris オペレーティングシステムの BIOS の設定」](#)を参照してください。
2. 現在インストールされている OS をサーバーから削除します。[セクション 2.4](#)、[2-5 ページの「ブートハードディスクドライブのパーティションの消去」](#)を参照してください。
3. OS をインストールします。以前作成したリモートイメージをインストールする場合は、[セクション B.2](#)、[B-2 ページの「Jumpstart サーバーからの Solaris のインストール」](#)を参照してください。
4. 次の手順に従って、ドライバをインストールします。

インストールの実行

Solaris 10 オペレーティングシステムが動作している環境で、ドライバのインストールと診断パーティションのマウントを行うには、次の手順に従います。

2.6.3 システムにスーパーユーザーとしてログインします。

1. DVD ドライブにツールとドライバの CD を挿入します。
Solaris 10 OS が自動的に CD をマウントします。
2. 次のコマンドを入力して、 /cdrom/cdrom0/drivers/solx86 ディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/drivers/solx86
```

3. 次のコマンドを入力して、インストールスクリプトを実行します。

```
# ./install.sh
```

システムドライバがインストールされます。

変更内容を有効にするためにシステムのリブートが必要であるというメッセージが表示されます。

4. Y キーを押してサーバーをリブートするか、N キーを押してサーバーを手動でリブートします。
5. DVD ドライブから CD を取り出します。
6. ネットワーク情報を求めるプロンプトが表示されたら、サーバーへアクセスするためのネットワーク情報を入力します。

Windows OS およびドライバのインストール

Sun Ultra 20 M2 Workstation は、Windows XP、32 ビット (SP2) および 64 ビットが稼動するように WHQL 認定されています。

Windows のインストール方法には複数のオプションがあります。

- Windows CD を使用して Windows をインストールし、OS のインストール中やインストール後に手動でドライバをロードします。
- XpReburn スクリプトを使用してプラットフォームと NVIDIA RAID ドライバの入った Windows CD を作成し、新しく作成した CD を使用して OS をインストールします (ビデオドライバは別個にインストールしてください)。
- Windows OS およびドライバの RIS イメージを作成し、RIS サーバーから OS をインストールします (付録 A を参照)。

Windows XP OS およびドライバをインストールする順序は次のとおりです。

1. 必要に応じて、Windows XP 用に BIOS を設定します。[セクション 3.1、3-2 ページの「Windows OS 用の BIOS の設定」](#)を参照してください。
2. 必要に応じて、インストール済みの Solaris OS をサーバーから削除します。[セクション 3.2、3-3 ページの「診断パーティションについて」](#)および[セクション 3.3、3-4 ページの「ブートハードディスクドライブのパーティションの消去」](#)を参照してください。
3. OS をインストールします。
 - [セクション 3.4、3-5 ページの「Windows の手動インストール」](#)
 - [セクション 3.5、3-8 ページの「XpReburn スクリプトによるドライバの入った Windows CD の作成」](#)
 - [付録 A、1 ページの「RIS サーバー上の Windows イメージの作成と RIS イメージのインストール」](#)

注 – OS をインストールする際に診断パーティションを削除しないでください。診断パーティションを削除してしまった場合は、『*Sun Ultra 20 M2 Workstation Service Manual (Sun Ultra 20 M2 Workstation サービスマニュアル)*』の指示に従って、Sun Ultra 20 M2 Workstation ツールとドライバの CD の「Create Diagnostic Partition (診断パーティションを作成する)」オプションを使用します。

注 – Windows XP は診断パーティションをマウントできません。対処方法については、『*Sun Ultra 20 M2 Workstation Service Manual (Sun Ultra 20 M2 Workstation サービスマニュアル)*』を参照してください。

3.1 Windows OS 用の BIOS の設定

このセクションでは、Windows OS および NVRAID 用にシステム BIOS と NVRAID BIOS を設定する方法について説明します。

3.1.1 Windows OS および NVRAID 用のシステム BIOS の設定

Windows OS およびオプションの NVIDIA RAID (NVRAID) 用にシステム BIOS を設定するには、次の手順に従います。

1. ワークステーションの電源をオンにします。
2. 次の手順に従って、Windows 用に BIOS を設定します。
 - a. Sun のロゴ画面が表示されている間に F2 キーを押して「BIOS Setup (BIOS 設定)」メニューを表示します。
 - b. 「Advanced BIOS Features (詳細な BIOS 機能)」メニューを選択します。
 - c. 「Installed O/S (インストールされた OS)」オプションを「Win2k/XP」に変更します。
3. 内蔵 NVIDIA RAID コントローラを使用する場合は、次の手順に従って NVRAID 用に BIOS を設定します。それ以外の場合は、[ステップ 4](#)へ進みます。
 - a. 「Advanced BIOS Features (詳細な BIOS 機能)」メニューを選択します。
 - b. 「Integrated Peripherals (統合された周辺装置)」メニューを選択します。

- c. NVRAID の設定を「Enable (有効にする)」に変更します。を「Enable (有効にする)」に変更します。
 - d. SATA チャンネルをそれぞれ「Enable (有効にする)」に設定します。
4. F10 キーを押して変更内容を保存し、システム BIOS を閉じます。

3.1.2 NVIDIA RAID BIOS の設定

NVRAID BIOS を設定するには、次の手順に従います。

1. ワークステーションをリブートします。
2. F10 キーを押して NVRAID BIOS を開きます。
3. 作成する RAID アレイの種類を選択します (ミラー化、ストライプ化など)。
4. 適切なディスクをアレイに追加します。
5. F7 キーを押して、この段階の設定を完了します。
6. ディスクデータのクリアを確認するメッセージが表示されたら、「はい」を選択します。
7. 必要に応じて、アレイをブートアレイに設定します (通常はこの設定をお勧めします)。
8. Ctrl キーを押しながら X キーを押して、NVRAID BIOS を閉じます。

3.2 診断パーティションについて

ツールとドライバの CD には、診断 (システムテスト) ソフトウェアが収録されています。診断ソフトウェアの使用手順については、『*Sun Ultra 20 M2 Workstation Service Manual* (Sun Ultra 20 M2 Workstation サービスマニュアル)』を参照してください。

テストスクリプトをログファイルに書き込むには、診断パーティションが必要となります。診断パーティションが存在しないと、診断画面には結果しか表示されません。

診断パーティションは、Sun Ultra 20 M2 Workstation にプリインストールされています。診断パーティションは、削除していない限りインストールし直す必要はありません。

診断パーティションを削除した場合は、ツールとドライバの CD の「Create Diagnostic Partition (診断パーティションを作成する)」オプションを使用して作成し直すことができます。手順については、『Sun Ultra 20 M2 Workstation Service Manual (Sun Ultra 20 M2 Workstation サービスマニュアル)』を参照してください。

注 - Windows XP は診断パーティションをマウントできません。対処方法については、『Sun Ultra 20 M2 Workstation Service Manual (Sun Ultra 20 M2 Workstation サービスマニュアル)』を参照してください。

3.3 ブートハードディスクドライブのパーティションの消去

ブートハードディスクドライブ上の診断パーティション以外のすべてのパーティションを消去するには、ツールとドライバの CD のメインメニューにある「Erase Primary Boot Hard Disk (プライマリブートハードディスクの消去)」オプションを使用します。



注意 - 「Erase Primary Boot Hard Disk (プライマリブートハードディスクの消去)」オプションは、診断パーティションを除くハードドライブ上のすべてのパーティションとすべてのユーザーデータを消去します。この操作を開始する前に、ハードディスクの全データをバックアップしてください。

プライマリブートハードディスクを消去するには、次の手順に従います。

1. ハードドライブ上に必要なデータがあれば、バックアップしておきます。
2. ツールとドライバの CD をワークステーションに挿入します。
3. メインメニューが表示されたら、ツールとドライバの CD のメインメニューから次のオプションを選択します。
 3. Erase Primary Boot Hard Disk

このオプションを選択すると、プライマリハードディスクドライブ上に現在あるすべてのパーティション (診断パーティション以外) が消去されます。診断パーティションが存在する場合、このパーティションはそのままになります。

4. 確認メッセージが表示されたら、パーティションの削除を確定して実行します。
5. 指示が表示されたら、任意のキーを押してシステムをリブートします。

3.4 Windows の手動インストール

このセクションでは、オプションの NVRAID ドライバ、プラットフォームドライバ、およびディスプレイドライバとともに Windows を手動でインストールする方法について説明します。このセクションでは、Windows の完全なインストールプロセスについては説明しません。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- 5 ページの「NVIDIA RAID ドライバフロッピーディスクの作成」
- 6 ページの「フロッピーディスクを使用した Windows XP のインストール」
- 7 ページの「NVIDIA チップセットおよびディスプレイドライバのインストール」

3.4.1 NVIDIA RAID ドライバフロッピーディスクの作成

このセクションでは、NVRAID ドライバの入ったフロッピーディスクの作成方法について説明します。このディスクは Windows のインストールプロセスで使用します。

3.4.1.1 要件

ブートディスクを使用して NVIDIA RAID ドライバをインストールするには、次のものがが必要です。

- CD-ROM ドライブを持つ Windows システム
- 空のフロッピーディスク
- Sun Ultra 20 M2 Workstation ツールとドライバの CD
- USB フロッピーディスクドライブ (RAID 構成の場合)
- Windows XP Professional CD (製品版のみ、OEM 版は不可)

3.4.1.2 フロッピーディスクの作成

Windows XP 32 ビットおよび 64 ビット用の NVRAID ドライバディスクを作成するには、CD ドライブとフロッピーディスクドライブを持つ Windows システムが必要です。

1. Windows ワークステーションで、ツールとドライバの CD を挿入します。
2. CD 上の次のディレクトリに切り替えます。

```
C:\> cd d:\drivers\windows\OS\chipset\ide\winxp\sataraid
```

OS には XP32 または XP64 を指定します。

3. ワークステーションに空のフロッピーディスクを挿入します。
4. ディレクトリ内のすべてのファイルを選択し、フロッピーディスクドライブ (a:) にそのファイルをコピーします。

3.4.2 フロッピーディスクを使用した Windows XP のインストール

NVIDIA RAID ドライバとともに Windows XP を Sun Ultra 20 M2 Workstation にインストールするには、次の手順に従います。

1. ワークステーションに、USB フロッピーディスクドライブを接続します。
2. 32 ビットまたは 64 ビットの Windows XP インストール CD を DVD ドライブに挿入します。
3. 指示が表示されたら、F6 キーを押して、サードパーティー製 RAID ドライバのインストールを開始します。
4. S キーを押してから Enter キーを押し、追加ドライバのインストールを指定して、フロッピーディスクを挿入します。
5. 「NVIDIA NForce Storage Controller」を選択します。
6. S キーを押してから Enter キーを押し、追加ドライバのインストールを指定します。
7. 「NVIDIA RAID CLASS DRIVER」を選択します。
8. Enter キーを押して、Windows XP のインストールを続行します。
9. OS のインストールが完了したら、[セクション 3.4.3、3-7 ページの「NVIDIA チップセットおよびディスプレイドライバのインストール」](#)の手順に従って NVIDIA ディスプレイドライバとチップセットドライバをインストールします。

3.4.3

NVIDIA チップセットおよび ディスプレイドライバのインストール

Windows XP のインストール後に、この手順を実行して、NVIDIA ディスプレイおよびチップセットドライバをインストールします。

1. DVD ドライブにツールとドライバの CD を挿入します。
2. 必要に応じて、次の手順に従ってチップセットドライバをインストールします。
 - a. 次のコマンドを入力して、ツールとドライバの CD 上のディレクトリに移動します。

```
C:\> cd D:\drivers\windows\OS\chipset
```

OS には XP32 または XP64 を指定します。

- b. 実行可能ファイルをダブルクリックします。
 - c. インストールソフトウェアの指示に従って操作します。
3. 必要に応じて、次の手順に従って NVIDIA ディスプレイドライバをインストールします。
 - a. 次のコマンドを入力して、ツールとドライバの CD 上のディレクトリに移動します。

```
C:\> cd D:\drivers\windows\OS\video\nvidia
```

OS には XP32 または XP64 を指定します。

- b. 実行可能ファイルをダブルクリックします。
 - c. インストールソフトウェアの指示に従って操作します。
4. 内蔵 ATI グラフィックコントローラを使用している場合は、ATI ドライバをインストールします。
 - a. 次のコマンドを入力して、ツールとドライバの CD 上のディレクトリに移動します。

```
C:\> cd D:\drivers\windows\OS\ati\version
```

- b. 実行可能ファイルをダブルクリックします。
 - c. インストールソフトウェアの指示に従って操作します。
5. ワークステーションをリブートします。

3.5 XpReburn スクリプトによるドライバの入った Windows CD の作成

XpReburn スクリプトを使用すると、NVIDIA プラットフォームと NVRAID ドライバの入った Windows 用のインストール CD-ROM または ISO CD イメージを作成できます。

XpReburn で作成した CD-ROM を使用すると、プラットフォームと NVRAID ドライバとともに Windows OS をインストールできます。プラットフォームやドライバを個別にインストールする必要はありません。

ツールとドライバの CD には XpReburn スクリプトが収録されています。XpReburn の詳細は、`/utilities/XpReburn_x.x.zip` ファイル (*x.x* はバージョン番号) に入っている `readme.txt` ファイルに記載されています。また、XpReburn を実行したときにも表示されます。

3.5.1 要件

XpReburn を使用して Windows OS インストール CD-ROM を作成するには、次のものがが必要です。

- Solaris オペレーティングシステム、Red Hat Enterprise Linux 3 または 4、または SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 9 がインストールされているシステム
- 内蔵の CD パーナーまたは CD パーナーへのアクセス
- 空の CD-R または CD-RW
- Windows XP Professional CD (製品版のみ、OEM 版は不可)
- Sun Ultra 20 M2 Workstation ツールとドライバの CD

3.5.2 XpReburn の使用

Sun Ultra 20 M2 Workstation プラットフォームと NVRAID ドライバが入った Windows XP インストール CD を作成するには、次の手順に従います。

1. Solaris OS、Red Hat Enterprise Linux 3 または 4、または SLES 9 システムで、ツールとドライバの CD を挿入します。
2. スーパーユーザーとしてログインし、1.2G バイト以上の容量を持つ一時ディレクトリを作成します。次に例を示します。

```
# mkdir /files
```

3. XpReburn_version.zip ファイルをその一時ディレクトリにコピーします。
ここで、version は、XpReburn のバージョン番号です。
次に例を示します。

```
# cp /utilities/XpReburn_1.1.zip /files
```

4. ツールとドライバ CD を取り出して、製品版の Windows XP Professional CD を挿入します。
5. XpReburn_version.zip ファイルを解凍します。次に例を示します。

```
# unzip -q XpReburn_1.1.zip
```

6. XpReburn スクリプトを実行します。次に例を示します。

```
#./files/XpReburn
```

スクリプトは、現在のディレクトリにあるはずのドライバファイルを表示します。4 つのドライバファイルをすべて一時ディレクトリにダウンロードし終わると、スクリプトは、新しい ISO イメージを作成し、システムに CD バーナーがあれば、自動的にその ISO イメージを CD に焼き付けます (CD バーナーが搭載されていない場合は、後日または別のシステムでサードパーティソフトウェアパッケージを使用して ISO イメージを CD に書き込むことができます)。

7. 作成した CD をワークステーションに挿入し、Windows XP をインストールします。
8. OS のインストールが完了したら、[セクション 3.5.3、3-10 ページの「NVIDIA ディスプレイドライバのインストール」](#) の手順に従って、ディスプレイドライバをインストールします。

3.5.3 NVIDIA ディスプレイドライバのインストール

注 - XpReburn スクリプトを使用して NVRAID ドライバの入った Windows XP CD を作成した場合は、ディスプレイドライバをインストールする必要があります。チップセットドライバのインストールは必要ありません。

Windows XP のインストール後に、この手順を実行して、NVIDIA ディスプレイおよびチップセットドライバをインストールします。

1. DVD ドライブにツールとドライバの CD を挿入します。
2. 必要に応じて、次の手順に従って NVIDIA ディスプレイドライバをインストールします。
 - a. 次のコマンドを入力して、ツールとドライバの CD 上のディレクトリに移動します。

```
C:\> cd D:\drivers\windows\OS\video\nvidia
```

OS には XP32 または XP64 を指定します。

- b. 実行可能ファイルをダブルクリックします。
 - c. インストールソフトウェアの指示に従って操作します。
3. 内蔵 ATI グラフィックコントローラを使用している場合は、ATI ドライバをインストールします。
 - a. 次のコマンドを入力して、ツールとドライバの CD 上のディレクトリに移動します。

```
C:\> cd D:\drivers\windows\OS\ati\version
```

- b. 実行可能ファイルをダブルクリックします。
 - c. インストールソフトウェアの指示に従って操作します。
4. ワークステーションをリブートします。

RIS サーバー上の Windows イメージの作成と RIS イメージの インストール

この付録では、次のオペレーティングシステムのリモートインストールサービス (RIS) サーバー上に Sun Ultra 20 M2 Workstation 固有のイメージを作成する方法について説明します。

- Windows XP SP2 32 ビット
- Windows XP 64 ビット

イメージを作成したら、クライアントワークステーションにイメージをインストールできます。

この付録には次のセクションがあります。

[付録 A.1、32 ビット Windows XP \(サービスパック 2\) RIS イメージの作成](#)

[付録 A.2、64 ビット Windows XP RIS イメージの作成](#)

[付録 A.3、RIS イメージのクライアントワークステーションへのインストール](#)

A.1 32 ビット Windows XP (サービスパック 2) RIS イメージの作成

このセクションでは、Windows XP 32 ビットイメージを RIS サーバー上に作成して、プラットフォーム固有のドライバをイメージに追加する方法について説明します。この手順で使用するすべてのドライバは、ツールとドライバの CD に収録されています。

注 - この手順を使用する前に、RIS を Windows 2003 サーバーにインストールしてください。RIS の詳しいインストール手順については、次の URL を参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/325862/ja>

A.1.1 RIS サーバー上の Windows XP SP2 32 ビット イメージの作成

Windows XP SP2 32 ビットを RIS サーバーにコピーするには、次の手順に従います。表示される画面で「次へ」または「完了」をクリックして、次の画面に進みます。

1. Windows XP SP2 32 ビット CD を RIS サーバーの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. 「スタート」メニューで、「ファイル名を指定して実行」を選択します。
3. RIS 設定プログラムを起動するには、次のコマンドを入力します。

```
c:\ risetup.exe
```

注 - すべてのコマンドにおいて、c:\ は DOS コマンドプロンプトを表します。

4. 「Welcome to the Remote Installation Services Setup Wizard (リモートインストールサービスのセットアップウィザードの開始)」画面で、「Next (次へ)」をクリックします。
5. 「Remote Installation Services Options (リモートインストールサービスのオプション)」画面で、「Add a new OS image to this remote installation server (新しい OS イメージをこのリモートインストールサーバーに追加する)」を選択します。

6. 「Installation Source Files Location (インストールソースファイルの場所)」画面で、Windows XP SP2 32 ビット CD が入っている CD-ROM ドライブを選択します。
7. 「Windows Installation Image Folder Name (Windows インストールイメージフォルダ名)」画面で、作成している Windows XP SP2 32 ビット CD イメージの内容がわかる名前を入力します。次に例を示します。

```
Ultra_20_M2_Windows_XP_SP2_32-bit
```

8. 「Friendly Description and Help Text (わかりやすい説明とヘルプテキスト)」画面で、エンドユーザー向けに説明とヘルプテキストを入力します。
9. 「Previous Client Installation Screens Found (以前のクライアントインストール画面が見つかりました)」画面で、「Use the old client installation screens (古いクライアントインストール画面を使用する)」を選択します。
10. 「Review Settings (設定の確認)」画面で、設定を確認します。
11. イメージがサーバーにインストールされたら、「Done (完了)」をクリックします。

A.1.2 NVIDIA イーサネットドライバの Windows イメージへの追加

NVIDIA イーサネットドライバを RIS サーバー上の Windows XP SP2 32 ビット CD イメージに追加するには、次の手順に従います。

1. ツールとドライバの CD を RIS サーバーの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. 次の作業を実行するために、次に示すコマンドを入力します。
 - Windows XP SP2 32 ビット RIS NVIDIA イーサネットドライバファイルを RIS サーバーにコピーします。
 - ファイルを Windows XP イメージにコピーします。

```
c:\ copy cdrom_drive:\drivers\windows\RIS\XP32\*.* c:\temp\nvriswxp  
c:\ copy c:\temp\nvriswxp\*.* ris_partition:\RemoteInstall\Setup\English\Images\  
image_dir\i386
```

cdrom_drive は RIS サーバーの CD-ROM ドライブ、*image_dir* はイメージディレクトリ、*ris_partition* は RIS イメージが保存されている RIS サーバー上のドライブです。

A.1.3 その他のドライバの追加と設定ファイルの修正

設定ファイルを修正し、ドライバディレクトリを作成して、Windows XP SP2 32ビットイメージが保存されている RIS サーバー上のディレクトリにドライバをコピーするには、次の手順に従います。

ristndrd.sif ファイルは、RIS サーバーの次のディレクトリにあります。

```
ris_partition:\RemoteInstall\Setup\English\Images\image_dir\i386\
templates
```

1. ristndrd.sif ファイルのこれらのエントリを次のように変更します。

```
[Unattended]
    OemPreinstall = yes
[GuiUnattended]
    AdminPassword = “任意のパスワード”
```

2. ristndrd.sif ファイルから次のエントリを削除します。

```
[Identification]
    JoinDomain = %MACHINEDOMAIN%
    DoOldStyleDomainJoin = Yes
```

3. ristndrd.sif ファイルに次のエントリを追加します。

```
[Unattended]
  DriverSigningPolicy = Ignore
  OemPnPDriversPath = "\drivers\audio;\drivers\nic;\drivers\sata_ide;\
drivers\smbus"

[MassStorageDrivers]
  "Nvidia RAID CLASS DRIVER (required)"="OEM"
  "Nvidia nForce Storage Controller (required)"="OEM"

[OEMBootFiles]
  nvatabus.sys
  nvraid.cat
  nvraid.inf
  nvraid.sys
  txtsetup.oem

[UserData]
  ProductKey = XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX

[Identification]
  JoinWorkgroup = WORKGROUP
```

4. RIS イメージの \$oem\$ ディレクトリを作成するには、次のコマンドを入力します。

```
c:\ mkdir ris_partition:\RemoteInstall\Setup\English\Images\image_dir
```

\$oem\$ ディレクトリには、次のディレクトリ名のサブディレクトリツリー構造があります

```
textmode
$1
  drivers
    audio
    nic
    sata_ide
    smbus
  video
    ati
    nvidida
$$
OemDir
```

5. Windows XP 32 ビットチップセットドライバファイルをツールとドライバの CD から `oem` ディレクトリツリーにコピーするには、次のコマンドを入力します。

```
c:\ copy cdrom_drive:\drivers\windows\xp32\chipset\*. * c:\temp\chipset
```

ドライバはツールとドライバの CD の次の場所にあります。

```
cdrom_drive:\drivers\windows\xp32\chipset\
```

6. チップセットドライバを適切なディレクトリにコピーするには、次のコマンドを入力します。

```
c:\ copy c:\temp\chipset\ide\winxp\sataraid\*.dll ris_partition:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$\OemDir

c:\ copy c:\temp\chipset\ide\winxp\sataraid\* ris_partition:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\textmode

c:\ copy c:\temp\chipset\ide\winxp\sata_ide\* ris_partition:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\sata_ide

c:\ copy c:\temp\chipset\ethernet\* ris_partition:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\nic

c:\ copy c:\temp\chipset\audiodrv\* ris_partition:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\audio

c:\ copy c:\temp\chipset\smbus\* ris_partition:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\smbus\

c:\ copy c:\temp\video\ati ris_partition:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\video

c:\ copy c:\temp\video\nvidia ris_partition:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\video
```

7. 次のディレクトリにある `txtsetup.oem` ファイルを編集します。

```
ris_partition:\RemoteInstall\Setup\English\Images\image_dir\%oem%\textmode\
```

[Files.scsi.RAIDCLASS] および [Files.scsi.BUSDRV] セクションの *.dll タイプのファイルの 各行の先頭にセミコロンを追加します。

8. 作成した RIS イメージを RIS サーバーで配布するには、次のコマンドを入力します。

```
c:\ net Stop binlsvc  
c:\ net Start binlsvc
```

A.2 64 ビット Windows XP RIS イメージの作成

このセクションでは、Windows XP 64 ビットイメージを RIS サーバー上に作成して、プラットフォーム固有のドライバをイメージに追加する方法について説明します。この手順で使用するすべてのドライバは、ツールとドライバの CD に収録されています。

注 - この手順を使用する前に、RIS を Windows 2003 サーバーにインストールしてください。RIS の詳しいインストール手順については、次の URL を参照してください。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;325862>

A.2.1 Windows XP 64 ビットの RIS サーバーへのインストール

Windows XP 64 ビット CD を RIS サーバー上にコピーするには、次の手順に従います。表示される画面で「次へ」または「完了」をクリックして、次の画面に進みます。

1. Windows XP 64 ビット CD を RIS サーバーの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. 「スタート」メニューで、「ファイル名を指定して実行」を選択します。
3. RIS 設定プログラムを起動するには、次のコマンドを入力します。

```
c:\ risetup.exe
```

注 - すべてのコマンドにおいて、c:\ は DOS コマンドプロンプトを表します。

4. 「Welcome to the Remote Installation Services Setup Wizard (リモートインストールサービスのセットアップウィザードの開始)」画面で、「Next (次へ)」をクリックします。
5. 「Remote Installation Services Options (リモートインストールサービスのオプション)」画面で、「Add a new OS image to this remote installation server (新しい OS イメージをこのリモートインストールサーバーに追加する)」を選択します。
6. 「Installation Source Files Location (インストールソースファイルの場所)」画面で、Windows XP 64 ビット CD が入っている CD-ROM ドライブを選択します。
7. 「Windows Installation Image Folder Name (Windows インストールイメージフォルダ名)」画面で、作成している Windows XP 64 ビット CD イメージの内容がわかる名前を入力します。次に例を示します。

```
Ultra_20_M2_Windows_XP_64-bit
```

8. 「Friendly Description and Help Text (わかりやすい説明とヘルプテキスト)」画面で、エンドユーザー向けに説明とヘルプテキストを入力します。
9. 「Previous Client Installation Screens Found (以前のクライアントインストール画面が見つかりました)」画面で、「Use the new client installation screens, and overwrite the old ones (新しいクライアントインストール画面を使用し、古い画面を上書きする)」を選択します。
10. 「Review Settings (設定の確認)」画面で、設定を確認します。
11. イメージがサーバーにインストールされたら、「Done (完了)」をクリックします。

A.2.2 NVIDIA イーサネットドライバの Windows イメージへの追加

NVIDIA イーサネットドライバを RIS サーバー上の Windows XP 64 ビット CD イメージに追加するには、次の手順に従います。

1. ツールとドライバの CD を RIS サーバーの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. 次の作業を実行するために、次に示すコマンドを入力します。
 - Windows XP 64 ビット RIS NVIDIA イーサネットドライバファイルを RIS サーバーにコピーします。

- ファイルを RIS イメージにコピーします。

```
c:\ copy cdrom_drive:\drivers\windows\RIS\XP64\*. * c:\temp\nvriswpx  
c:\ copy c:\temp\nvriswpx\*. * ris_partition:\RemoteInstall\Setup\English\Images\  
image_dir\amd64
```

cdrom_drive は RIS サーバーの CD-ROM ドライブ、*image_dir* はイメージディレクトリ、*ris_partition* は RIS イメージが保存されている RIS サーバー上のドライブです。

A.2.3 その他のドライバの追加と設定ファイルの修正

設定ファイルを修正し、ドライバディレクトリを作成して、Windows XP 64 ビット イメージが保存されている RIS サーバー上のディレクトリにドライバをコピーするには、次の手順に従います。

ristndrd.sif ファイルは、RIS サーバーの次のディレクトリにあります。

```
ris_partition:\RemoteInstall\Setup\English\Images\image_dir\i386\  
templates
```

1. *ristndrd.sif* ファイルのこれらのエントリを次のように変更します。

```
[Unattended]  
OemPreinstall = yes  
[GuiUnattended]  
AdminPassword = “ <任意のパスワード> “
```

2. *ristndrd.sif* ファイルから次のエントリを削除します。

```
[Identification]  
JoinDomain = %MACHINEDOMAIN%  
DoOldStyleDomainJoin = Yes
```

3. ristndrd.sif ファイルに次のエントリを追加します。

```
[Unattended]
    DriverSigningPolicy = Ignore
    OemPnPDriversPath = "\drivers\audio;\drivers\nic;\drivers\sata_ide;\
drivers\smbus"

[MassStorageDrivers]
    "Nvidia RAID CLASS DRIVER (required)"="OEM"
    "Nvidia nForce Storage Controller (required)"="OEM"

[OEMBootFiles]
    nvatax64.sys
    nvraid.cat
    nvrpx64.inf
    nvrpx64.sys
    txtsetup.oem

[UserData]
    ProductKey = XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX

[Identification]
    JoinWorkgroup = WORKGROUP
```

4. RIS イメージの \$oem\$ ディレクトリを作成するには、次のコマンドを入力します。

```
c:\ mkdir cdrom_drive:\RemoteInstall\Setup\English\Images\image_dir
```

\$oem\$ ディレクトリには、次のディレクトリ名のサブディレクトリツリー構造があります

```
textmode
$1
    drivers
        audio
        nic
        sata_ide
        smb
    video
        ati
        nvidida
$$
OemDir
```

5. Windows XP 64 ビットチップセットドライバファイルを \$oem\$ ディレクトリツリーにコピーするには、次のコマンドを入力します。

```
c:\ copy cdrom_drive:\drivers\windows\xp64\chipset\*. * c:\temp\chipset
```

ドライバはツールとドライバの CD の次の場所にあります。

```
cdrom_drive:\drivers\windows\xp64\chipset\
```

6. ドライバファイルを適切なディレクトリにコピーするには、次のコマンドを入力します。

```
c:\ copy c:\temp\chipset\ide\winxp\sataraid\*.dll ris_partition:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$OemDir

c:\ copy c:\temp\chipset\ide\winxp\sataraid\* ris_partition:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\textmode

c:\ copy c:\temp\chipset\ide\winxp\sata_ide\* ris_partition:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\sata_ide

c:\ copy c:\temp\chipset\ethernet\* ris_partition:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\nic

c:\ copy c:\temp\chipset\audiodr\* ris_partition:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\audio

c:\ copy c:\temp\chipset\smbus\* ris_partition:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\smbus\

c:\ copy c:\temp\video\ati ris_partition:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\video

c:\ copy c:\temp\video\nvidia ris_partition:\remoteinstall\setup\english\images\image_dir\%oem%\$1\drivers\video
```

7. txtsetup.oem ファイルは次のディレクトリにあります。

```
ris_partition:\RemoteInstall\Setup\English\Images\image_dir\%oem%\textmode\
```

[Files.scsi.RAIDCLASS] および [Files.scsi.BUSDRV] セクションの *.dll タイプのファイルの 各行の先頭にセミコロンを追加します。

- 作成した RIS イメージを RIS サーバーで配布するには、次のコマンドを入力します。

```
c:\ net Stop binlsvc  
c:\ net Start binlsvc
```

A.3 RIS イメージのクライアントワークステーションへのインストール

このセクションでは、PXE ブートを使用して RIS イメージをクライアントワークステーションにインストールする方法について説明します。

- ワークステーションの電源をオンにするか、リブートします。
- POST 中に、F12 キーを押して PXE を開きます。
ワークステーションがネットワーク上の RIS サーバーを検索します。
- Windows RIS のインストール画面が表示されたら、名前とパスワードを入力します。
- インストールする RIS イメージを選択します。
イメージを選択すると、OS のインストールが開始され、最後まで自動的に実行されます。

Linux および Solaris 10 OS リモート イメージのインストール

B.1 PXE サーバーからの LINUX の インストール

次の手順では、PXE サーバーがシステムと同じネットワーク上に設定され、PXE イメージがサーバーにロードされていることを前提としています。

注 – Red Hat 3 Update 7 には NVIDIA イーサネットドライバが含まれていないため、この OS の PXE インストールは実行できません。ただし、Red Hat 3 Update 8、Red Hat 4 Update 3、および SLES 9 SP2 は PXE で起動できます。

PXE サーバーから起動するには、次の手順に従います。

1. システム起動時の BIOS 段階で、F8 キーを押してブートメニューを呼び出します。
2. NVIDIA ブートオプションを選択します。
3. インストールするイメージを選択します。
4. インストールが完了すると、リブートします。
5. ツールとドライバの CD から手動でドライバをインストールする手順に従います。

B.2 Jumpstart サーバーからの Solaris のインストール

注 - この手順を開始する前に、Jumpstart サーバーを構築して、NVIDIA イーサネットドライバ (nge) を含む Solaris 10 6/06 イメージ上に配置してください。Solaris 10 6/06 には、nge ドライバは含まれていません。Jumpstart インストールについては、『Solaris 10 6/06 インストールガイド (カスタム JumpStart/ 上級編)』(819-6293-xx) を参照してください。

この手順を実行して、Solaris 10 6/06 をワークステーションにインストールします。インストール済みの Solaris 10 OS を再インストールする場合は、『*Sun Ultra 20 M2 Workstation Service Manual* (Sun Ultra 20 M2 Workstation サービスマニュアル)』を参照してください。

1. 起動時の BIOS 段階で、F8 キーを押してブートメニューを呼び出します。
2. NVIDIA ブートオプションを選択します。
3. システムがインストールプロセスを自動的に開始し、インストールが完了するとリブートします。
4. 本書の Solaris セクションで説明しているサーバーの設定手順に従います。